

令和3年度 東京都農林総合研究センター研究成果発表会 発表演題

No.	発表演題	発表者
1	東京型農作業スケジュール管理アプリの開発 ～多品目の栽培が効率的に行えるアプリをリリース～	スマート 農業推進室
	スマホで農作業予定の登録・編集を行う機能と、作付けした品目履歴を地図上に表示する機能をスタートアップ(株) Agrihubと共同開発しました。農作業支援アプリ「アグリハブ」で、東京農業の特徴である多品目栽培を効率的に行えます。	植松光代
2	『東京おひさまベリー』の品種特性と栽培管理 ～「東京おひさまベリー」栽培のポイント～	園芸技術科
	「東京おひさまベリー」の栽培の特徴を詳しく調べたところ、草勢が強く繁茂しやすいので株間はやや広めの30cm間隔で植え付け、施肥量は基準の窒素成分の半分程度で栽培できることを明らかにしました。	海保富士男 徳田真帆
3	ブバルディアの東京オリジナル品種の開発 ～華やかな八重咲き3品種ができました～	園芸技術科
	ブバルディアは伊豆大島の特産切り花です。この度、東京オリジナル品種の第2期となる「東京ダブルスター」シリーズ3品種を開発しました。いずれも華やかな八重咲でボリューム感があり、海外品種に匹敵する高品質・高収量が見込めます。	大槻優華
4	高温抑制技術によるシクラメンの高品質化 ～ミスト、遮光資材、冷房機のトリプル処理が有効です～	園芸技術科
	夏季の高温は、シクラメンの葉枚数や花蕾数を減少させ品質を低下させます。この課題の解決に向け、様々な高温抑制技術の効果を検討したところ、簡易ミスト、遮光資材、夜間冷房の併用処理がこれら品質劣化に対し有効であることを明らかにしました。	岡澤立夫
5	都内のブルーベリーで発生した新しい病害 ～発生状況と病原種を明らかにしました～	生産環境科
	ブルーベリーには国内で13種の病害が報告されていますが、2020年に都内栽培圃場で初めてうどんこ病の発生を確認しました。そこで、都内の発生状況、病徴および病原菌の種類について明らかにしました。	富田有理
6	東京エコポニックで発生しやすいトマトの生育不良と解決策 ～養分や水分が原因の生育不良について解決策をまとめました～	生産環境科
	ココヤシの実の殻から作られるヤシガラは隙間が多く、ミネラルを含むという特徴があります。今回はヤシガラを培地として使用する東京エコポニックの栽培で発生しやすい養分や水分が原因のトマトの生育不良について、その原因と解決策を報告します。	坂本浩介
7	緑化植物の挿し木環境制御システムの開発 ～挿し木の発根率が向上します～	緑化森林科
	ビニルハウス内での挿し木繁殖に向けた挿し木環境制御システムを開発しました。細粒ミストと遮光資材を組み合わせた本システムを用いて、夏期のハウス内温度を抑制し、湿度を高く保つことで挿し木の発根率が向上します。	福原修斗